

平成28年度
トウル市派遣青年親善研修生
報告書

平成28年9月10日(土)～9月23日(金) 14日間



公益
財団
法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

目 次

| | |
|--|----|
| 1. 日程 | 1 |
| 2. フォトギャラリー | 3 |
| 3. 親善研修生 報告書 I | |
| 香川大学経済学部 地域社会システム学科 2年 片山 健太 | |
| 日誌・活動記録 | 5 |
| 感想文「ツール研修を終えて」 | 19 |
| 4. 親善研修生 報告書 II | |
| 香川大学工学部 安全システム建設工学科 2年 村井 颯希 | |
| 日誌・活動記録 | 21 |
| 感想文「Je suis très contente. (私はとても幸せだ)」 | 34 |

平成 28 年度 トゥール市派遣 青年親善研修生日程

| 日 時 | 時 間 | 内 容 |
|----------|---------------------------------|---|
| 9月10日(土) | 17:05 18:25 22:55 | NH538 高松空港発 羽田空港着 AF293 羽田空港発 |
| 9月11日(日) | 4:30 8:19 10:01 | シャルル・ド・ゴール空港着 シャルル・ド・ゴール駅発 サン・ピエール・デコール駅着、お迎え |
| 9月12日(月) | 9:00 11:15 15:00 17:00 | トゥール市役所 トゥール美術館 トゥーレーヌ語学学院 市議会出席 |
| 9月13日(火) | 10:00 13:00 | ブロワ大学 ブロワ城 |
| 9月14日(水) | 11:00 13:00 | トラムでトゥール市内散策 トゥールラング(語学学校)で講義参加 |
| 9月15日(木) | 9:00 10:30 12:25 14:00 | マルムティエ学園で折紙教室 ブラン・フシー(ワイン工場)見学 マルムティエ学園でお茶会 トゥール市内散策 |
| 9月16日(金) | 10:00 | ショーモン城見学と庭園フェスティバル見学 |
| 9月17日(土) | | ホストファミリーと週末を過ごす |
| 9月18日(日) | 9:00 16:00 | ヴーヴレイのフリーマーケット参加 日の出協会とブロワ大生と交流 |
| 9月19日(月) | 10:00 14:30 15:30 | ヴァンシー(イベント会場)見学 サン・シール・シュール・ロワール市役所訪問 サン・シールの小学校で竹とんぼ教室 |
| 9月20日(火) | 9:00 14:00 17:30 | ディドロ小学校で折紙、竹とんぼ教室 トゥール市オペラ座見学 トゥール市役所でレセプション |
| 9月21日(水) | 10:14 11:18 11:30 | サン・ピエール・デコール駅発 モンパルナス駅着 パリ観光 |
| 9月22日(木) | 10:00 11:00 13:55 | モンパルナス駅発 シャルル・ド・ゴール駅着 AF276 シャールル・ド・ゴール空港発 |
| 9月23日(金) | 8:30 10:00 13:55 15:10 | 成田空港着 リムジンバスで羽田空港へ移動 JL481 羽田空港発 高松空港着 |

Les photographies de souvenirs

Le 10 Septembre~le 23 Septembre 2016
en Tours



ホストファミリー達のお出迎え



トゥール美術館にて館長代理のデュランさんと



ブロワ大学にてクリスティーヌさんと



市内を南北に貫く近代的なトラム



市内中心部プリムロー広場にて学生達と



マルムティエ高校にて日本語クラスの生徒達と



マルムティエ高校にて折紙教室とお茶会を開催



ゲーグレイにて
ホストシスター達と



ブロワ城横の
マジックの館にて



プリュロー広場の
オープンカフェ



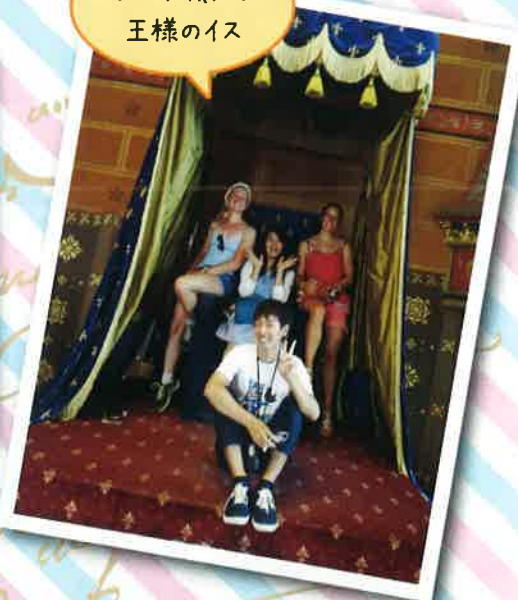
ミニシャトーパークにて
ヴィランドリー城の模型



フランス語の
折紙マニュアル



ブロワ城にて
王様のイス



ディドロ小学校にて
竹とんぼつくりと折紙教室



パリ・ルーブル美術館にて



親善研修生 報告書 I

日誌・活動記録

香川大学経済学部 地域社会システム学科 2年 片山 健太

9月10日(土)

ついにこの日を迎えてしまった。何をやるにもギリギリな私は当日の朝にホストファミリーへのお土産を買いに行き、その後何とか荷造りも完了させた。ドタバタしていたこの日だが、私はそれほど焦っていなかった。なぜなら、間に合うかどうかわからなかったクレジットカードを前日に受け取ることができていて満足していたからだ。クレジットカードさえあれば何とかなる、私は魔法のカードを手にしたかのように安心していた。

電車とバスで高松空港に到着し、みんなが揃ったところで、海外渡航初心者ならではの問題が起きた。荷物が重すぎた。私は早くもお土産用に用意していたバッグに荷物を何とかおさめ、高松空港を出発！羽田に着くと、定食屋に入り夕食を食べた。

フランス行きの飛行機に乗ると外国人の乗客や客室乗務員が多くて少し外国に行く実感が湧いてきた。飛行機の中では客室乗務員の方に積極的にフランス語を使い、相手の反応はイマイチでもフランス語を使っている自分に満足していた。12時間のフライトは長かったが映画や機内食、そしてこれから始まる研修について話したりと楽しんだ。



羽田空港にて

9月11日(日)

朝の4時30分ごろにパリの空港についた。私たちはツールに行くためTGVの乗り場を探して歩き回ったが、1時間歩いても見つけることができなかった。TGVの乗り場を見つけたことができたのはそのさらに1時間後だった。何とか見つけることができたがお腹がすいてきたのでパンを買うことにした。海外での初めての買い物、少し緊張したがパンを買うことに成功した。そのあとトイレに行くと、トイレを使うのにお金を払わされた。フランス語を教えてもらった先生から前もって聞いてはいたが、驚いた。

そうこうしていると出発の時間が近づいてきたので乗り場に急いだが、思いのほか混んでいて、さらにチケットを機械に通すのに手間取り、TGVに乗り込んだ時は出発時間を2、3分過ぎていた。乗り遅れも覚悟したほどだった。TGVは日本でいう新幹線のようなものと聞いていたが、実際はスピードはあまりなかった。1時間ほどでサン・ピエール・デクール駅につき、「ようこそツールに」という紙を持った市役所の方々とホストファミリーが出迎えに来てくれていた。駅から車でトネ家に向かった。私のホストファミリーであるトネ家



ホストシスター達と一緒に

はご主人のパトリスさん、奥さんのクリスティーナさん、長女のカミーユ、次女のカルメン、三女の

セリアである。途中パン屋さんから、フランスパンを紙袋に入れて出てくる人を見てほんとにこんな光景があるんだ、と衝撃を受けた。

家に入ると出迎えに来てくれていた三女のセリアに家の中を案内してもらった。そのあと近所のパン屋に一緒に行きクロワッサンを買った。買ってきたクロワッサンをセリアと彼女の友達のマリエと一緒に食べ、それから少し寝させてもらった。



初めて食べるエスカルゴ

その日の夜は村井さんのホストファミリーであるスネ家で両ファミリーと一緒に夕食を食べた。フランスでの初めての夜はフランスの食文化を堪能することになった。意外に絶品だったエスカルゴ、日本のものとは全く違うクセのある多種類のチーズ。ほかにも食卓にはたくさんのフランス料理が並んだ。

スネ家からの帰り道、前もって聞いていた家族構成と違い2人娘さんがいなかったのどうしている

のか聞くと、長女のカミーユは就職してフランスのポルニクというところにて、次女のカルメンはスウェーデンに3年間の留学をしているようだ。

カミーユは日本語が上手と昨年の研修生から聞いていたので、いざというときはカミーユに頼ろうと思っていた私は、一気にホストファミリーとコミュニケーションをとっていけるのか不安になった。でも、今日初めてともに過ごすトネ家、スネ家のみんなが優しく私たちを迎えてくれたこともあり、これからのトゥールで過ごす10日間へ不安とともに大きな期待が生まれた。

9月12日(月)

この日は朝からトゥール市役所に向かった。市役所ではこれから私たちがお世話になる国際交流課の皆さんに挨拶をし、スケジュールの確認をした。そのときに私たちが日本で作ってきたフランス語で行うプレゼンを最終日のレセプションですることが決まった。レセプションには議員さんも参加すると聞き、これから毎晩練習するの必要を感じた。そのあとアテンド役のブリッタさんに市役所を案内してもらった。トゥール市役所はまるでお城のようで、日本の市役所と全く異なっていた。

市役所を一通り見終わった後はトゥール美術館へと歩いて向かった。トゥール美術館に着くとまだ時間に余裕があったので隣にあるサンガシアン大聖堂に足を運んだ。サンガシアン大聖堂の中は1枚1枚違うステンドグラスが張り巡らされていて、とてもきれいだった。そうこうしていると時間が来たので美術館に行くと、建物の前にはこれぞヨーロッパ式の庭園といえるであろう、左右対称に丁寧に手入れされた庭があり日本庭園とはまた違う趣を感じた。



トゥール美術館の綺麗な庭園

美術館ではトゥールに住む日本人の伴 直子さんと合流した。直子さんは美術館の館長代理がしてくれる絵の解説を通訳してくれた。そのおかげもあり私たちは館長代理の面白い説明を聞き楽しむことができ、また疑問に思ったことを質問することもでき、コミュニケーションをしっかりと取ることができた。

美術館を後にした私たちは近くのカフェで昼食をとることにした。ここではガレットとミルフィーユを食べた。初めて食べるガレットはおいしかった。ここで驚いたのは休日でもないのに昼からアルコールをブリッタさんと直子さんが飲んでたことだ。聞くと、フランスでは当たり前だそうでシードルというリンゴ味の果実酒を飲んでた。試しに一口もらうと、ビールよりも飲みやすかった。

それから1時間ほど時間があつたので直子さんとはここで別れ、村井さんと2人で自由時間をもらった。ナショナル通りを一通り回った後、パン屋で軽食を取った。時間になりブリッタさんと合流し、トゥーレーヌ語学学院へ向かった。学生生活担当のエリザベスさんに学校の紹介と学内の案内をもらった。途中授業に少しだけ参加させてもらったが難しく、何をしているのかわからなかったが、その授業を受ける学生の中に日本人も混じっていて、日本人でもフランス語を学ぶために語学留学している人が結構いるのだと知り、自分も将来このレベルの講義を語学留学して受講したいと思った。

市役所に戻ると市議会を見学に行った。議会の開始時間が近づき、部屋には多くの議員や関係者がやって来た。すると目の前には、皆が1人1人と挨拶としてほった同士でチュッ、チュッとするフランス式の挨拶の「ビズ」を大勢の人がする、日本では見ない異様な光景が広がり、私たちはただただ圧倒された。議会が始まるとその冒頭、ババリ市長が私たちのことを高松市から研修生が来ていると、私たちの名前を言って紹介してくれた。

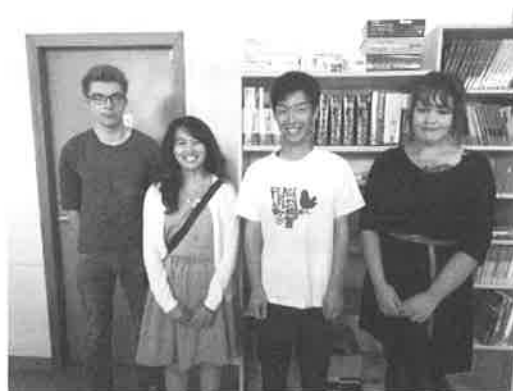


トゥール市議会の模様

しばらくの間議会を聞いた私たちは、村井さんのホストマザーのリンダさんと帰宅した。家に着くとホストマザーのクリスティーナさんが出迎えてくれた。クリスティーナさんは英語があまり話せないためフランス語で会話をしなければならなかった。前日はご主人のパトリスさんとセリアが英語をフランス語にして、コミュニケーションをとっていたがクリスティーナさんしかおらずフランス語を話さなければいけない状況にあった。1日の出来事は何とか、つたないフランス語で伝えられたが、洗濯物とシャワーを浴びてもいいか、とどのように言えばいいのかわからず電子辞書を片手に何とか伝えた。実生活で使う生きたフランス語を使え、ホームステイをすることは語学を学ぶ上で大切だと思った。夕食はステーキを食べ、その日は疲れていたためすぐに寝た。

9月13日(火)

今日はブリッタさんが迎えに来てくれて、トゥール市ではなくブロワまで行くことに。車中で話をしているとフランスでは大体法定速度は普通の道で80キロ、高速では130キロまで許されていると知り驚いた。まず初めにブロワ大学を訪れた。この学校は香川高等専門学校と提携を結んだばかりの大学で高松となじみがあったので訪れた。大学の図書館や講義室を一通り案内してもらうと、



ブロワ大学の学生達と交流

言語学習センターでブロワ大学の男女2人の学生と交流した。2人は日本に興味があるそうで、漫画や音楽の話題で盛り上がった。最後には2人の名前を漢字で書いてあげると喜んでくれてうれしそうだった。

その後、歩いてブロワ城まで行った。この地域は観光客に人気ということもあり、団体の旅行者が多く見かけられた。お城に入る前に、昼食にサンドイッチとエクレアを食べた。食べ始めると遠くから奇妙な音が聞こえたので行ってみると、ブロワ城の向かいにあるマジックの館でマジックショーが行われていて、ドラゴンが窓から飛び出して動く演出がされていた。また、馬車も広場を通っていて、中世の暮らしを感じた。

昼食を済ませた私たちはブロワ城内を見学した。日本人の私たちのためにブリッタさんは日本語のパンフレットと英語の音声ガイドを用意してくれた。ブロワ城内は、まるで美術館のように昔の家具や絵、彫刻などが展示されていた。ブロワ城は広く、そして高くてすべてを回るのは大変だったが、ゴシック、フランポアイアン、ルネッサンス、クラシックの4つの異なった建築様式の城と美しい美術品のおかげでとても興味をそそられた。

ブロワ城を後にした私たちは、ブロワ大学の別館で新聞記者の取材を受けた。そのあと昼に会った学生とはまた違う5人のブロワ大学の学生と交流した。彼らはいろんな国籍の学生で、モロッコやマレーシア、そして日本の学生もいた。普段は英語で授業を受けているためフランス語はあまり話せないようだった。

今日の夕食は少し変わったことがあった。それはゆで卵の食べ方だ。ゆで卵を専用の台に置き、上の殻だけを専用の道具で取り、スプーンで中の卵をとってパンにつけて食べるというものだ。私はこのように茹で卵を食べたことがなく、新鮮な体験だった。

夕食後、セリアとパトリスさんと一緒にピアノをした。私は簡単な日本の曲を弾いた。こんなことがあるなら、何曲か自信をもって弾ける曲を用意しておけばと後悔した。そのあとパトリスさんがアンジェラアキの「拝啓十五の君へ」を弾いてくれた。日本の曲を知っていることに驚いた。そしてセリアはピアノが得意ということもあり、いろんな曲を弾いてくれた。日本の曲でいうと、ドラマ「花より団子」で使われた、宇多田ヒカルの「Flavor of Life」を弾いてくれた。でもそれよりも印象に残っているのがジョンレノンの「IMAGINE」だ。この曲はセリアとパトリスさんがデュエットして、弾き語りをしてくれた。この曲を聴くのは初めてだったが好きになった。また、セリアとパトリスさんのように日常的に一緒に歌を歌える親子っていいなと思った。

9月14日(水)

今日は気温が一気に下がって肌寒い一日だった。この日の午前中はトラムに乗った。トラムに乗って町を見て回ると、街中の近くに空き地が多くみられた。日本ではこんな街中に広い空き地があることは珍しいが、日本の倍近い国土で半分くらいの人口しかいないフランスだからなのかと考えた。トラムで1時間ほど散策した後は市役所の食堂で昼食をとった。ここの食堂は、おかずの量が多くて丸皿一杯におかずを入れてもらった。またパンとチーズは無料で取り放題で驚いた。

昼食が終わると、トゥールで一番古い語学学校である「トゥールラング」を訪れた。出迎えてくれたのは日本人の奥さんを持つヤニックさんだった。ヤニックさんは日本語が少し話せて、ユーモアを



荘厳なブロワ城

交えながら学内を案内してくれた。ここでは実際に文明講座に参加させてもらえた。座学の後は7種のチーズと3種類ほどのパンの食べ比べをした。

せっかくの機会なので全種類に挑戦した。食べてみるとフランス用の舌になってきたのかおいしいと感じるチーズも何個かあった。特にオレンジ色のミムレットというチーズはおいしかった。だが対照的にどうしてもダメなチーズが1つあった。それはカマンベールだ。カマンベールチーズは日本でも聞く名前なのでおいしいのではと思っていたが、におい、味ともに私の体は受けつけることはできなかった。

講義が終わるとヤニックさんと学生と一緒に旧市街地と呼ばれるエリアを探索した。トゥールラングのそばには日本でいう古墳みたいなものが残されていた。時間にまだ余裕があったので喫茶店に入って休憩をした。時間になってセリアが迎えに来てくれたので一緒に帰った。帰り道セリアの通っているポワチエ大学を通ったが、まだ入学して間もないからと言い、道に迷いながらも案内してくれた。

家に帰って夕食を済ませ、明日の予定を確認すると折り紙を教えることになっていたのので、セリアとパトリスさんと一緒に折り紙をした。簡単なものは折ることができたが、少し複雑なパタパタ鶴は悪戦苦闘した。結果的には折ることはできたが私が教えていたはずなのに、最後はセリアに教えてもらって完成した。またパトリスさんはずっと前に折ったことがあるとあって、口がパタパタする恐竜を折ってくれた。



7種のチーズの食べ比べ



セリアとパトリスさんの折り紙練習

9月15日(木)

この日の朝は私達二人はリンダさんに村井さんのホストファミリーのスネ家姉妹と一緒に送ってもらった。というのも、今日初めて行くのはスネ家姉妹が通うマルムティエ学園だからだ。ここには日本でいう小学校から高校まであり、多くの生徒が通っている。トネ家の姉妹たちもここに通っていたそうだ。学校につくと保井先生という日本人の先生が出迎えてくれた。

保井先生に案内され今日折り紙を教えることになっている教室へ。生徒はまだ日本語の授業を1, 2回受けただけらしいが日本語で自己紹介をしてくれた。少し高松のことを紹介すると、うどんや栗林公園に興味を持ってくれた。

そして簡単な挨拶も終わり、折り紙を教える時がやって来た。トゥールに来て初めて日本の文化を伝える機会に初めはうまくいくか心配だったが、折り紙を一緒にやっていく中でうまく教えられている自分たちに自信がつい



マルムティエ校にて折り紙教室

てきて、最後のほうは楽しくできた。折り紙は計4種類した。ハートや箱は簡単だったが、やっぱり鶴が難しくて苦戦した。でも最後はみんなが鶴の羽をパタパタできてよかった。日本文化を外国の方に伝えるのは言語の壁があり難しいと感じたが、同時に日本のことを知ってもらえることに喜びを感じた。

授業が終わると保井先生に校内を案内してもらった。案内をしてもらっていると休み時間になり多くの生徒が校庭に出てきた。あまりに多くの生徒が出てきたのでフランスの子は元気だなと思っていると、休み時間は強制的に外に出されると言われ驚いたが、フランスのこのような教育方針はいいなと思った。

私たちはそのあと一旦保井先生と別れてブラン・フーシーを訪れた。ここではワインの熟成をしている洞窟の中を見学させてもらった。見学が終わるとワインを販売している建物に移動した。そこはまるでおしゃれなバーのような作りになっていて、私たちはそこでワインを試飲させてもらった。一杯目は白ワインを、二杯目はスパークリングワインを飲んだ。するとここで問題が発生した。すきっ腹の状態でワインを飲んだせいか、二杯目の途中で気分が悪くなった。気持ち悪さは全く治る気配がなく、その後の活動に影響を与えた。



ブラン・フーシーにてワインの試飲

マルムティエ学園に戻ると、今度は日本語を習っている高校生と一緒に小さなお茶会を開いた。彼らは午前中に折り紙をした学生と違って、日本語を学び始めて時間が経っているので、日本語でも少しだけ会話をする事ができた。お茶会の方は体調が悪い私に代わって、村井さんが何から何までやってくれて感謝しかなかった。抹茶と和三盆を口にした学生たちは、「結構なお点前です」と難しい言葉を使い、教えたとおりの作法で喜びを表現してくれた。

市役所に帰り、日の出協会の麗子さんと合流した。私たちは麗子さんの案内でトゥール市内を探索することにした。この時まだ昼食を食べていなかった私たちは、レストランに入り昼食をとった。もちろんまだ私は気分が悪かった。でも何か食べればきっと元気になると思い、がっつりハンバーガーを頼んでしまった。最初の方は気分よく食べ進めていたが、半分を食べ終えたころから異変が、今日一番の気持ち悪さが来た。



トゥールの古い街並み

激しい吐き気に襲われ、帰るように2人に促されたが、せっかくの機会を無駄にしたくなかったのでなんとか気合で吐き気を沈めた。食事を終えると旧市街地を中心に案内してくれた。麗子さんに漫画を売っている店に行きたいというと、近くの漫画の店に連れて行ってもらった。店の中には日本でおなじみの漫画ばかりで日本の漫画がフランスに浸透しているんだと感じた。また、最新刊も売られていてタイムラグがあまりない作品もあり驚いた。価格は大体日本で買う倍の金額であったが、2冊のお気に入りの漫画をつい買ってしまった。

家に帰るとセリアと一緒に料理をしないかと誘ってくれた。この日の献立はサンドイッチトーストのようなものだった。クッキング中、セリアの好きな曲をいろいろ教えてくれて、楽しい雰囲気です。

理をした。私も、私とセリアが知っていて盛り上がる曲は何だろうと考え、「アナと雪の女王」の曲を流し、「扉開けて」や「Let it go」を二人で一緒に歌って、踊って盛り上がった。料理もうまくできてパトリスさんとクリスティーナさんは「C'est bon」（おいしい）と言ってくれた。

9月16日（土）

この日は朝からセリアの調子が良くない。おそらく急に寒くなったことで、体調を崩したんだと思う。朝食の時、セリアはレモン2分の1をお湯にしぼりハチミツを入れてレモネードを作っていた。それを見て私は、日本にはホットレモンという商品のように、簡単にレモネードが作れる商品があるのになと思い、日本は便利なものがあふれているなとしみじみ感じた。

私たちはショーモンで開かれている庭園フェスティバルを訪れた。

庭園にはもともと興味があり、大学で「栗林公園ゼミナール」という講義を受講していたので日本庭園や栗林公園の特徴は理解しており、ヨーロッパ式の庭園と比較するのが楽しみだったのでこの庭園フェスティバルは私にとってとても魅力的だった。しかもこの庭園フェスティバルは世界各国の庭を展示していて、日本庭園とは違う斬新なデザインに何度も出会えた。世界各国の庭園は、そこに配置されている小物やイスが奇抜で、私たち2人のカメラのシャッターは止まることがなかった。ジャンプして撮ったり、その世界観にあったポーズを2人で考えて撮ったりと、いろんなポーズで撮り、その枚数は私1人で350枚を超えていた。



Le jardin qui se savoure

日本庭園は最後の最後に出てきたがたった一つで終わってしまい寂しかった。この庭園フェスティバルでみた庭園の中で1番気に入った庭は「Le jardin qui se savoure」（満喫庭園）というフランス式の庭だ。この庭は入り口が特徴的で、木で作られたトンネルが印象的だった。また、中も緑をふんだんに盛り込んでおり、その庭の中心には植物で円を作り、その周りにイスを配置して座れるようになっていて、自然を肌で感じやすい造りになっていた。庭園を見終わると、ショーモン城の中を見て回った。このお城では、壊れかけのトイレや荒れた部屋などあり、終始奇妙なものが目に付いた。



奇妙なショーモン城内

家に帰ると、今日の夕食はムール・フリットだった。ムール・フリットとはムール貝とフライドポテトのセットをメインとする料理だ。このムール貝はもちろん絶品だったが、食べ方がとてもユニークでよく考えられていた。その食べ方とは空になった貝で他の貝の身を挟んで食べるというものだ。この食べ方は普通に食べるより手が汚れずに済み、日本に帰ったら貝を食べるときにこの食べ方をやって、家族や友達に教えたいと思った。この日はトネ一家が日本に行った時の話をした。セリアは最初に学校の旅行で日本に来たそうだ。その後また、家族全員で日本に来たそうだ。日本はとてもよかったと喜んでた。



夕食のムール・フリット

夕食後、セリアが部屋にある日本のものを見せてあげる、と部屋に呼んでくれた。部屋には長女カミーユが買ったという大きな扇子やセリアの日本キャラクターグッズなどが飾られていた。彼女は日本専用ボックスを作っていて、中には日本のお菓子や観光地のパンフレット、折り紙などが入っていた。ついでに部屋に並んだDVDを見せてもらった。棚にはフランス映画の他にも、ディズニーやハリウッドスターが出演している映画などが多く並べられていた。

セリアから何か見る？と聞かれたので、前日盛り上がった「アナと雪の女王」をフランス語で見ることにした。もちろん英語字幕付きで、セリアは歌が流れると一緒に歌ったが喉を痛めていて、高音が出せなくて、高音の所は声がかすれてしまっていた。それでも何とか高音を出そうとする姿は可愛かった。映画を見ながらセリアは自分が受けている講義の宿題をしていた。宿題内容は英語の発音記号を記すもので難しそうだった。セリアもこれは難しいんだと言っていた。でも反対にフランス語の授業は簡単で退屈なんだと教えてくれた。

9月17日(日)

今日と明日はホストファミリーと週末を楽しむ日程になっていた。なので今日はトネさん一家と一緒に過ごした。まず最初に私たちはミニシャトーパークを訪れた。ここにはミニチュアサイズで再現されたロワール渓谷地方にある41種類のお城が展示されている。どの城も細部まで再現されていて実際にそれらのお城を訪れた気分になった。

ここでは、まだ一度も家族そろって写真を撮っていなかったの、昨日訪れたショーモン城のミニチュアの前で写真を撮った。パークの中にはキッズスペースもあり、バルーンで作られたお城も展示されていた。そしてその横のスペースには、木を植えて作られた迷路があり、どっちが早く出口にたどり着けるかセリアと一緒に勝負した。41種類あったお城は、どれも魅力的だったが、特にヴィランドリー城がきれいだった。このお城は毎年研修生が訪れていたそうだが、今回の私たちの研修プログラムには含まれていなかったのミニチュアサイズだがヴィランドリー城の美しい庭を見ることができてよかった。

この庭は9つの正方形の庭をメインにととても形作られていると感じた。ほかにはこのパークにはいろいろと楽しむ仕掛けがあり、パーク内を回れる線路の上を走る小さな車や操縦可能なラジコンの船、中世の衣装の貸し出しなどがあり、これらのうち私は船の操縦をした。

ミニシャトーパークの後は、色鮮やかなガラス細工を売っているお店を訪れた。どれも綺麗で、特にセリアは興味津々でネックレスにされたガラス細工を見て、何度も綺麗だ、かわいいと言っていた。

そのあとはアンボワーズ城に行った。アンボワーズ城は中を見て回ることはしなかったが、城下町を見て回った。ここではお昼にレストランでパスタを食べた。食べ終えて城下町を見て回ると、おしゃれな雑貨が多くみられた。ただこの日は土曜日で、休日はしっかり休むフランス人らしく、店を休み



トネ家のみんなとミニシャトーパークにて



アンボワーズ城の城下町にて

にしているところが多かった。一通り見て回り、アイスクリーム屋に行った。ここでは3種類のフレーバーを注文して、花のようにアイスクリームを盛り付けてくれた。味もおいしくホストファミリーと一緒にアンボワーズ城を眺めながらおいしく頂いた。そのあとチョコレート屋さんに行くと、ホストファミリーが私の家族にと、チョコレートのお土産を買ってくれた。そのチョコレートを私にも買ってくれて、それをお城からの帰り道に食べると濃厚でおいしかった。

いったん家に帰り少し休憩してから、麗子さんがいる日の出協会で行われているイベントにパトリスさんと行った。日の出協会ではくまのプーさんの絵を用いて体のパーツと数字を教えていた。またそこでリョンの大学を卒業し、トゥールの大学院に通い始めたという伊東真良さんと出会った。近い将来、海外の外国に通いたいと思っているので伊東さんの大学生活について話を聞かせてもらい、将来の参考になってよかった。パトリスさんにこの後予定があったのであまり長居はできなかったが楽しい時間を過ごすことができた。



日の出協会の皆さんと

その日の夕食はクレープだった。クレープと言ってもデザートだけというわけではなく、中の具にチーズやハムを挟んで食べるものだった。

そのあとパトリスさんとサンガシアン大聖堂のイルミネーションを見に行った。これは12日に訪れた時にブリッタさんがイルミネーションがきれいだと教えてくれて、それをその夜に言う週末に見に行こうと約束をしていたのだ。サンガシアン大聖堂に行く道中、今日の夕食の時パトリスさんと一緒にワインを飲んだことを思い出し、車を運転しているパトリスさんは飲酒運転では、と思わず戸惑った。でも後から聞いた話、フランスではお酒を少し飲んだくらいなら、酔わないということで車を普通に運転するようだった。サンガシアン大聖堂に着き、始まるのを待っていると多くの人が集まってきてイルミネーションに対する期待感がわいてきた。イルミネーションと聞いていたので光るだけだと思っていたが、どうやらプロジェクションマッピングのようで期待感がさらに高まった。そしてイルミネーションが始まると、音楽に乗せながら、花や人など、スタンドグラスのように色鮮やかで、幻想的な世界が目の前に広がった。プロジェクションマッピングを生で見るのは初めてだったが、次々に変わる綺麗な光のアートに感動した。

9月18日(月)

この日は朝からホストファミリーの家があるヴェーグレイで大規模なフリーマーケットが行われていた。このフリーマーケットはセリアが前から、「日曜は年に一度のフリーマーケットなの、とっても楽しみ。健太はいいタイミングに来たね」と言っていて、とても楽しみにしていた。トネ家も家の前に机を出し、フリーマーケットで売るものを並べていた。品物としては、本やおもちゃ、外で使用する机とイスが並んでいた。私もセリアと一緒にフリーマーケットを見て回った。やはりそこでも気になったのは日本漫画だった。漫画を置いているところは少



年に一度のフリーマーケット

なかったが、NARUTO や ONE PIECE といった人気の漫画を見かけた。フリーマーケットを見て回っていると村井さんとスネ家の長女シャーロットに会った。村井さんはフリーマーケットでネックレスを買ったんだとうれしそうに話していた。

村井さんたちと別れいったん家に帰った後、今度は1人でまだフリーマーケットの見ていないところを見に行った。スネ家も参加していると聞き、スネ家の方に行くと家の周辺はフリーマーケットをしている雰囲気がなく、おかしいなと、ほかのところを回っているとスネ家がフリーマーケットをやっているところを見つけた。どうやらスネ家の前はフリーマーケット会場の外らしく、荷物を持ってきてやっていると教えてくれた。ご主人のジョンリックさんとは初日以来で久しぶりに話すことができよかった。干し梅を持っていたのであげるとおいしいと言ってくれた。ただ、ほかのスネ家のみんなは苦手な味だったようだ。

家に帰りパトリスさんと一緒に昼食づくりをした。出来上がるとセリアとその幼馴染のエリアさんと一緒に昼食をとった。パトリスさんとクリスティーナさんは外で近所の人々と、ワインを飲んで話を楽しんでいた。

夕方になると、麗子さんが迎えに来てくれてトゥール市の旧市街地まで行った。そこでは日の出協会関係の人たちとブロワ大学で仲良くなったエルワンとシャフレンとともにカフェで親睦を深めた。この日も昨日会った伊東さんが来てくれていて、フランスの大学に入学するための手順など昨日聞くことができなかった細かなことまで聞くことができた。また、フランス語も教えてもらった。日の出協会では日本語を習っていたというリロさんとは、日本語で会話をすることができた。そのあとトゥール市内を散策した。途中ペタングをしている人たちに遭遇した。ペタングは野球ボールくらいの大きさの重い球をビュットという目標の球めがけて投げ、どれだけ近いかを競うフランス生まれの球技で、この研修中1回はしてみたいと思っていた。普通はお金を払わなければならないそうだが、優しい人たちの計らいで、特別に4球だけ投げさせてくれた。ペタングは見た目簡単そうだが、実際やってみると難しくて全然的の近くにできなかった。

すっかり日も暮れてきたのでクレープ屋さんで夕食をとった。ここではガレットを食べた。ガレットはフランスですっかり好きになった料理でやっぱりおいしかった。また、せっかくフランス人の大人と通訳ができる人がいたので、自分が気になっている難民の受け入れ問題に対して質問をすることができた。日本には難民受け入れによって生じる問題も、マクロ的視点では見ることができないので、今難民問題で揺れているヨーロッパに住む人の意見を聞くことができよかった。



お気に入りのガレット

9月19日(火)

今日の午前は何も予定が入ってなくてフリーの時間だったので、昨晚村井さんと相談して麗子さんたちに村井さんが行きたがっていたヴァンシーと私が行きたいと言ったスーパーに連れて行ってもらうことにした。ヴァンシーはジャパンエキスポの会場になるなど、大規模なイベントや会議の会場として使用されているらしい。会場内の裏側まで案内していただき、大道具専用のエレベーターや控室まで見ることができた。主要ホールは350人700人2000人の収容能力をもつ3つに分けられており、3つすべてを見学させてもらえた。350人700人のホールはその時は使用していなく、登壇もさせて

もらえた。2000人のホールは何かの会議が行われていた。

そのあとオーシャンというフランスで有名なスーパーで買い物をした。私はまだお土産を全然買っていなかったのがカゴいっぱいを買ってしまった。見たことないお菓子の数々に手が止まらなかった。また、ミモレットという一番のお気に入りのチーズと小分けにされているチーズを買った。買い物が終わり、麗子さんもこの日スペインに行かなくてはいけないので、私達は市役所近くのパン屋さんの前でお別れをした。そしてそのパン屋で昼食をとった。ここは直子さんと会った日にも2人だけで来ていたということもあり、簡単に注文を済ませることができた。

そのあと市役所でブリッタさんと合流して、サン・シール・シュール・ロワール市役所に行った。そこで日仏協会的美紀さんと市役所の方が迎えてくれた。市役所の前には大きな広場があり緑豊かな自然が広がっていた。

それから私たちはサン・シールの小学校を訪問した。ここでは2つのクラスで「ゲー、チョコキ、パーの歌」を日本語で子供たちと歌った。初めは日本語に戸惑う子供たちだったが、回を重ねるたびに一緒に踊って歌ってくれる子が増えてきてうれしかった。そのあとは牛乳パックとストローを使って竹とんぼを作った。竹とんぼが出来上がりみんなが飛ばし始めると、子供たちは興奮でパニック状態になるほど喜んでくれた。それが終わると、一通り市役所内を案内して頂き、それから日仏協会へと向かった。日仏協会では、地元紙の取材を受けた後、フランスのお菓子と美紀さん手作りのジャムをパンにつけて頂き、休憩した。



サン・シールの小学校にて竹とんぼ教室

そして家に帰ると、無理言って日本料理を1品作らしてもらった。私はだし巻き卵がきれいに巻けるといって、ちょっとした特技があったのでだし巻き卵を作った。クリスティーナさんは職人技だと言って褒めてくれた。だし巻き用のフライパンを準備していなかったというのもあり、形はオムレツのようになってしまったが、きれいに巻けた。味はいつも通りできて、みんなおいしいと言ってくれた。またこの日のデザートにはとても奇妙なスイーツが出てきた。名前はリオレというのだが、何が使われているかという、まさかのお米だった。お米に牛乳や生クリーム、砂糖



お米のスイーツ「リオレ」

糖などを混ぜたものらしいが、お米がデザートって、ましてや、フランスに来て初めて食べるお米が甘かって、なんてことだ、と思いながら口に入れてみると確かにおいしい。でも何か変だった。それでもちょっと好きになる味だった。

そのあとはセリアとまたDVDを見ることにした。今回見たのもまたディズニー映画で「ブラザーベア」という映画だった。この映画は初めて見るのでフランス語の音声と英語の字幕で理解することが大変だったが、簡単なフランス語が分かるようになって自分に気づき少し自信がついた。セリアはお姉ちゃんたちに、よく喋るから、物語に出てくるコーダという子熊の名前で呼ばれていたんだと話してくれた。

9月20日(水)

今日はトゥールでの最後の活動。市内のディドロ小学校で、折り紙と竹とんぼを一緒に作った。この日は日本語を通訳してくれる方もおらず、フランス語と英語、基本的にはフランス語で教えることになった。折り紙は鶴を作ったので、折り方を伝えるのはとても難しく、「comme ça !! (このように)」と実際に何度もやってみせ、教えました。教えている間、「日本語で〇〇はなんて言うの?」「〇〇っていうマンガ



大人気の竹トンボ

知ってる？」など日本に関する質問をたくさんしてくれて、楽しい時間が過ごせた。ただその反面、なんて言っているのかわからなくて質問に答えることが出来ないこともあった。最後は校庭に出てみんなで竹とんぼを飛ばしたり、かけっこをして楽しんだ。体を思いっきり動かすのはフランスに来て初めてだったので、ついつい生徒と一緒にはしゃいでしまった。

それから市役所に帰り、食堂で昼食をとった後レセプションでのプレゼンの準備にとりかかった。フランス語の発音が難しく、一緒に発音練習をしてもらった。レセプションでは、私たちのトゥールでの10日間を振り返るスライドが流れ、これで終わってしまうのか、と実感が湧いてきた。そしてついに私たちのプレゼンの時を迎えた。発音のミスもたくさんあったが、みんなから、言ってることはちゃんと理解できたと言ってもらい嬉しかった。その後、研修でお世話になり、レセプションに来てくれた方々とお別れをして家に帰宅した。最後の夜はセリアと、サンドイッチとチョコフォンデュを作って楽しんだ。



市役所でのレセプションにて

9月21日(木)

今日の朝は少し静かな朝だった。パトリスさんが昨晚、明日は朝早くに仕事に行かなければならないから今夜が最後かもと言っていたので、ホームステイ先で初めて早起きをした。何とかパトリスさんが仕事に出る前に会えて、お別れの挨拶ができた。そのあとセリアが学校に出る時間になり、最後はビズをしてお別れをした。出発の時間になり、クリスティーナさんと車でサン・ピエール・デコール駅へと向かった。駅に着き、村井さんとブリッタさんと合流して少し思い出話をして時間を待った。そこでとんでもないことに気づいてし



ブリッタさんとお別れ

まった。冷蔵庫にスーパーで買ったチーズを忘れた。セリアに何度も忘れないでね、と言われていたのに。どうしようもないのでチーズはトネさん一家にプレゼントすることにした。時間になりクリスティーナさんとお別れをした。ブリッタさんとともにTGVのホームに行き最後の別れをした。特にブリッタさんは私たち2人の活動にほとんど付き添っていただいただけに別れがつかった。

TGVに乗り込むと、パリでの計画を立て始めた。1時間程し、モンパルナス駅に着くと、そこにはパリの街並みが広がっていた。ホテルで荷物を預け、いよいよ活動開始。1日しかないパリでの観光のチャンスを最大限に生かすため、まずは公園でクリスティーナさんにもらっていたパンでお腹を満たした。その後、ホテルのチェックインの時間まで時間があったので、スーパーでもう一度チーズを買い、それからホテルにチェックインした。ホテルでメトロを確認してまずはルーヴル美術館を目指した。初めて使うメトロに戸惑っていると、村井さんがリードしてくれた。ルーヴル美術館は中に入る時間がないので有名な三角のオブジェだけを見た。村井さんがルーヴル美術館の下にデパートがあると教えてくれ、お土産を買うためにそこに行った。デパートの中には、逆三角形のオブジェがあり驚いた。お土産も買うことができ、次に凱旋門を目指した。凱旋門は普段なかなか見られない横顔も見ることができた。

そのあとシャンゼリゼ通りを歩いたが人もまばらでおかしいなと思ったら、凱旋門を挟んで逆のサイドを歩いていたようだった。時間もなく、つぎは今回一番の楽しみであるエッフェル塔に行った。エッフェル塔は先に行った場所からも見ることができたが、やっぱり間近で見たエッフェル塔が一番迫力もありすごかった。そのあとは村井さんがどうしてもエッフェル塔をバックに、ジャンプした写真を撮りたいと言ったので、撮影ポイントまで行きいざ撮影に。でもなかなか思い通りの写真が撮れず、少し位置を変えたり、服を1枚脱いでみたり試行錯誤を重ねて、なんとか納得してくれる写真が撮れた。連射を繰り返すこと10回以上。取り終わると、村井さんはジャンプしすぎて息が上がっていた。私もついでに撮ってもらった。



間近で見るエッフェル塔 II

ホテルで計画しているときに村井さんができればクルージングをしたいと言っていたので、船乗り場に行ってみると、まだ乗ることが可能だった。早速チケットを買い乗船すると、何とタイミングが良かったことにエッフェル塔がライトアップされた。クルージングが始まるとあたりは真っ暗になり、パリの町全体がライトアップされきれいな光景が広がった。実際に足を運ぶことができなかったノートルダム大聖堂をはじめ、オルセー美術館やグランド・パレなどを見ることができた。これぞパリと言わんばかりの目まぐるしく変わる景色にシャッターはやむことを知らなかった。クルージングが終わると22時近くになっていた。最後にホテル近くのモンパルナスタワーに上った。激動の一日をパリの夜景を見ながら振り返った。

ホテルに帰ると荷物の整理をする必要があったが、これまでの疲れもあり寝てしまった。

9月22日(土)

昨晚、荷物の整理ができていなかったため、2人で荷物の重さが20キロを超えないように調整を朝早くからした。朝食の前にホテルから空港までのリムジンバスを予約しに行くと、どれも空いてなくてモンパルナス駅からメトロで行くことになった。

いろんな人に助けてもらいながらなんとか空港に到着。あとは乗るだけ…そう思っていたが、立て続けにトラブルが起きた。まず最初に荷物の預け入れのタグを機械がうまく読み込まず、荷物の預け入れに1時間ほどの手間をとった。そして、荷物の預け入れの際に席が空いてなくスタンバイの状況

だと言われた。詳しいことは把握できていなかったが、誰か2人がキャンセルをしなければ自分たちは乗れないとことであつた。時間がなかったのでとりあえず搭乗口まで行ってくれと言われ、パリにもう1日いられるかもしれないという期待と、自分たちではどうしようもない問題への不安を抱えつつ搭乗口へと向かった。結果だけ言うと、1人のキャンセルが出たため村井さんだけが先に帰国することになった。1人残された私は日本人の係員の方が代わりに飛行機やホテル、食事の手配をしてくれ、さほど大きな不安を感じることはなかった。

それから一通り連絡を済ました私はもう一度パリを観光しようと決めた。予想外のトラブルにこれ以上問題を起こしてはいけないからホテルでおとなしくするべきと思ったが、どうしても村井さんの助けがなくてもメトロに乗り観光できると証明したいという変な思いに駆られて、昨日、真下から見るができなかった凱旋門にもう一度行くことにした。特に失敗もせず凱旋門とシャンゼリゼ通りを観光できた。



二度目の凱旋門

空港に戻り係員に言われた通りにシャトルバスに乗れ、目的のホテルに着いた。夕食はホテルのビュッフェで済ませた。久しぶりに1人で食べる夕食、向かいの席が空いていることに寂しさを感じはしたが、どれもおいしかった。

9月23日(日)

朝の5時過ぎに起きることができたので、羽田空港に着いている村井さんにすぐインターネット電話をかけ、お互いに昨日のことを話し合った。彼女が無事についた安堵感とともに、1人であることへの寂しさが湧いてきた。その後、朝食と準備を終えてバスで空港へ。空港も3度目となると、スムーズに目的の所まで行くことができた。搭乗前には村井さんから高松についてと連絡があり、自分もいよいよフランスともお別れか、と実感した。そしてついに、フランスを後にした…飛行機の中では睡眠をとらずに、映画を見続けた。機内食はカレーが出て、久しぶりにちゃんとお米を食べられた。

9月24日(月)

朝6時前に羽田空港に到着。乗継まで時間がなく、「本当だったらここで村井さんと久しぶりの日本食を堪能するはずだったのに…」と思いつつ、急いで高松行きの飛行機に搭乗。そしてついに、高松空港に到着。出迎えには協会の職員さんと旅行会社の方が出迎えに。「お疲れ様」と声をかけてもらい一気に力が抜けた。高松駅までの道中、見慣れた風景を見ていると「なんだか日本の町は色が多いな。」とフランスの街並みと比べて思った。

感想文



香川大学経済学部
地域社会システム学科 2年
片山 健太

トゥール研修を終えて

今回の親善研修は、私にとって初めての海外経験ということもあり正直不安で一杯でした。この研修を申し込んだ当初は期待に胸を膨らませていた私ですが、研修生に決まり、フランスへ行く日が近づくにつれて、9月10日なんか来ないでくれと心のどこかで思ってしまうほど不安になっていました。しかし、今回の研修が終わると、早くまたフランスへ行きたい、海外に行きたいという思いしかなく、海外渡航への消極的な姿勢はどこかへ消えてしまいました。

この親善研修は私が思っていた以上に1日のスケジュールがびっしりと詰まっていた。次から次へと訪れる日本文化を伝える機会。折り紙や竹とんぼ、どれも教える時に言いたいことが十分に言えたわけではありませんでしたが、ボディランゲージを交えながら伝えることができ、言葉の壁を乗り越えることができました。さらに日本のことに興味を持ってくれる人々も多く、もっと日本のことを詳しく伝えたいと思いました。

また、姉妹都市のトゥール市をはじめ、いろんな観光地にも連れて行って頂きました。日本とは異なる様式のお城や庭を訪れることができ、建築の視点からもフランスと日本の文化の違いを実感しました。特に、私は庭園造りには興味があり、幾何学的なヨーロッパ庭園の造りには何度も魅了されました。

私が今回最も不安視していたのは、実はホームステイです。うまく家族とコミュニケーションをとれるか、何か迷惑をかけてしまわないか、初めから不安は絶えませんでした。しかしトネ家のみなさんは私を温かく迎え入れてくれ、私在家でリラックスできるようにいつも笑って接してくれました。私の第2の家族、トネ家の皆さんは本当にそんな存在になりました。トゥール市での楽しい日々は、トネ家での安心した暮らしがベースにあると思っています。ホームステイ先がトネ家でよかったです。

今回の2週間は高松国際交流協会をはじめ、高松市役所や松平公益会ならびに多くの機関、関係者皆様のご協力、ご支援があつてこそだと考えております。心から感謝申し上げます。これからの高松市とトゥール市のより一層深い友好関係と将来の親善研修生の活躍を願っております。

親善研修生 報告書 Ⅱ

日誌・活動記録

香川大学工学部 安全システム建設工学科 2年 村井颯希

9月10日(土)

いよいよ出発当日、高松空港へと向かった。空港で市協会の皆さんの激励の言葉を受け、東京へと飛び立った。飛行機の中では、これから始まるフランスでの生活に胸を膨らませて、片山君とフランス語の日常会話の練習をしていた

9月11日(日)

シャルル・ド・ゴール空港へは朝の4時半に到着した。飛行機の中で横の席に座っていたフランス人に手を振り、フランス国鉄の新幹線 TGV の乗り場へと向かった。人に尋ねたり、表示を見たりしながら、さまよっていたら到着から早くも2時間がたっていた。朝早すぎると、電車などが全く動いていないため、案内が出ていないらしい。私たちの他にも迷っている外国人を何人か見かけた。次第に人の数が増え、案内所が開いたので聞きに行くと、乗る時間の30分前になると電光掲示板に乗り場が出るからそれまで待て、と言われた。外国をたった2人で行動する不安から、私は少しせっかちになっていたかもしれない。

TGV の私たちの席は2階で、荷物を上げるのが大変だったが、荷物を置いてしまえば、TGV 中は快適だった。ホストファミリーに会うのを楽しみにしながら、窓から見える景色をながめていた。

サン・ピエール・デ・コール駅に着き、出口のほうへ歩いて行こうとしたとき、「Tours へようこそ」の紙を持った人たちがこちらへ歩いてくるのが見えた。それは、トゥール市国際交流課職員のマリさんとブリッタさん、私のホストファミリーのスネ家のみなさん（ご主人のジョンリックさん、奥さんのリンダさん、長女のシャーロット、次女のアポリーヌ、三女のガロンス）、片山君のホストファミリーのトネ家の三女のセリアだった。ジョンリックさんが私の重いスーツケースを持って車まで運んでくれた。私たちはリンダさんの運転でトゥールの隣町であるヴァーグレイの各家へと向かった。

家に着くと、アポリーヌが家の案内をしてくれた。とても広くてきれいな家で、驚きを隠せなかった。私の部屋は、普段アポリーヌが使っている部屋をかしってくれるそうで、壁色がピンクのかわいい部屋だった。開け閉めできる天窗がついていて、私はその部屋がすぐ気に入った。中庭もこれまた広く、6匹のうさぎと2匹の猫、数え切れないほどの鶏がいて、びっくりすると同時に、とても癒やされた。アポリーヌとガロンスは動物の世話をするのが



ホストファミリー達とウェルカムパーティー

家に着くと、アポリーヌが家の案内をしてくれた。とても広くてきれいな家で、驚きを隠せなかった。私の部屋は、普段アポリーヌが使っている部屋をかしってくれるそうで、壁色がピンクのかわいい部屋だった。開け閉めできる天窗がついていて、私はその部屋がすぐ気に入った。中庭もこれまた広く、6匹のうさぎと2匹の猫、数え切れないほどの鶏がいて、びっくりすると同時に、とても癒やされた。アポリーヌとガロンスは動物の世話をするのが



うさぎのポポと次女のアポリーヌ

本当に好きで、アポリーヌに関しては、自分の上着の中でうさぎの子を抱えていることがしばしばあった。アポリーヌとガロンスにそれぞれうさぎの名前と見分け方を教えてもらい、一生懸命覚えた。抱かせてもらうとすごくふわふわで、小さくてかわいかった。

一通り家の案内をしてもらった後、シャーロットが自分の部屋に呼んでくれて、マンガのコレクションを見せてくれた。青年マンガが特に好きなようで、日本で有名なマンガがずらりと机の上に並んでいた。「何をするのが好き？」と聞かれて、いくつか挙げた中で、バトミントンをするのが好きという共通の趣味が見つかった。ということで、さっそく広い庭で一緒にバトミントンをした。昼食の後はリンダさんとシャーロットとガロンスとヴーヴレイの街を探検した。たくさんの人が家の中を見せてくれて、街の人たちは仲が良く、優しい人ばかりだなと感じた。見せてくれた家は、このトゥーレーヌ地方の伝統的な石でできた家で、それはロワール川からとれるトッフという砂が材料となっているそうだ。石でできた白い壁が、すごく雰囲気があって、きれいだった。また、この土地で有名なワインをつくるためのブドウ畑もたくさん見る事ができた。丘の上の方にあがると、見渡す限り一面ブドウ畑だった。ここでは、白のスパークリングワインが有名だそうで、ブドウ畑はすべて白ブドウだった。



トッフで造られた家

家に帰ると、アポリーヌがお菓子を作るというので、「私もお菓子作りが好きで家でよく作るよ」と言って、一緒にワッフルを作った。シャーロットが「アポリーヌはお菓子作るのが好きで得意なんだよ」と教えてくれた。焼けるのを待っている間、数字の練習をした。アポリーヌは日本語で、私はフランス語で、教え合いながら楽しくお菓子作りができた。共通の趣味が見つかるというのはとても嬉しいし、仲良くなれた気がした。こちらに着いてから、ホストファミリーのみんなが「疲れてない？時差ぼけは大丈夫？」と何回も気をつかって聞いてくれていたが、ホストシスター達がたくさん話しかけてくれるのが嬉しくて、着いてからずっとフル活動していたので、さすがに夕食まで少しだけ休むことにした。

夕食は、片山君のホストファミリーのトネ家もスネ家に来て、2家族で食事をした。片山君のホストマザーのクリスティーナさんと、ホストファザーのパトリスさんに初めてお会いしたが、2人とも優しく、「Bienvenue à France. (フランスへようこそ)」と笑顔で迎えてくれた。いかにもフランスらしい料理が並んだが、私は切ったバゲットに、豚肉のパテをのせて食べるのがおいしくて、日本にはないものだと思った。

チーズに挑戦ということで、5種類のチーズを出してくれたが、食べやすいと言われたものも、残念ながら私の口には合わなかった。その後にエスカルゴも出してくれて、今回フランスに来て初めての夕食は挑戦続きであった。バジルソースの味付けが良く、片山君とおいしいと言ってそれぞれ5個ずつも食べてしまった。デザートとして、アポリーヌと私が一緒につくったワッフルと、マカロンを食べた。ワッフルはみんながおいしいと言って食べてくれて、アポリーヌと顔を見合わせて笑った。フランスに着いた初日だとは思えないほど、盛りだくさんな1日だった。

9月12日(月)

スネ家の一日は8時に始まる。8時すぎにみんな降りてきて一緒に朝食を食べる。切ったバゲットに自家製のジャムをぬって、ホストシスター達はそれをココアにつけて食べていた。ジャムはおばあ

ちゃんがいつも作ってくれるそうだ。私はこのジャムが大好きだ。アプリコットとオレンジがあって、私のお気に入りアプリコットだった。

8時半過ぎにはみんな仕事や学校に出かけるので、それと一緒にリンダさんの運転で市役所まで連れて行ってもらう。リンダさんはトゥールの市役所で、道路課のお仕事をしている。トゥール市内を走っているトラム(日本で言う路面電車のようなもの)の建設にも携わったそうだ。フランスやトゥールには古くからの伝統的な建物が多いけれど、トラムは現代的なデザインで、シルバーのフォルムが特徴的である。「トラムの現代的なデザインは、古くからの伝統的な建物があるこの街の景観を崩してしまわないの?」と、トラムについて気になっていたことを聞いた。すると、リンダさんは、「シルバーの現代的なデザインにすることで、周りの景色を映し出し、上手く調和するように考えられたのよ。」と答えてくれた。また、「トラムには白と黒のいくつかのストライプが入っていて、駅にも同じデザインの柱が立っていて、目印になっているのよ。駅にトラムが止まるときにそのデザインが重なるの。」と教えてくれた。ブリッタさんと市役所で合流し、「また夕方ね」と言ってリンダさんと別れた。

午前中は、ブリッタさんと一緒に市役所の中をまわった。色んな課を訪問し、ブリッタさんが私たちを紹介して下さったので、「Bonjour, enchantée. (こんにちは、よろしくお願いします。)」と挨拶をした。市庁舎はとてもきれいで、お城のようだった。白い階段に赤いカーペットが敷いてあるだけで、私たちはテンションが上がっていた。市庁舎は、トゥール出身の建築家、ヴィクトール・ラルーの設計のものだ。私は、同じく彼の設計であるオルセー美術館が前にパリを訪れた時にとっても気に入っていて、この市庁舎もとても好きになった。その後、トラムが走るナショナル通りを歩き、サン・ガシアン大聖堂へ向かった。トラムには、朝リンダさんが言っていたように白と黒のストライプのデザインが施されており、駅のデザインに沿ってぴったり止まっているのを見たときは感動した。

サン・ガシアン大聖堂の中には色とりどりのステンドグラスがちりばめられていて、外観においても内観においても、大学の授業で習ったゴシック建築の特徴をあちこちで見ることができた。

次に、大聖堂を出てすぐ横にある、大きい木が庭のシンボルとなっているトゥール市美術館を訪れた。トゥール市美術館では、館長代理のデュランさんが絵の説明や見所を教えてください、伴さんが訳をしてくれたので、とても楽しく美術館をまわることができた。その中でも特に印象に残ったのは、トゥールの街を描いた作品で、ロワール川を中心に描かれていた。しかし、その作品は、トゥール出身の人が描いた絵ではなく、訪れたこともない画家が描いたので、本当のトゥールとは違うところがいくつかあるそうで、みんなの間違い探しをした。他にも、モネの作品の秘密や、フランスの有名な画家、オリヴィエの絵も楽しむことができた。

昼食は、美術館近くのお店「デリス・デ・ボザール」でガレットを食べた。天気の良い日に外の席



白黒のデザインが良く映えているトラム



サンガシアン大聖堂のステンドグラス

で食べるガレットは特別おいしくて、おしゃれだった。このお店は、スイーツがおいしくて有名なお店だそうで、店内にはかわいいスイーツがたくさん並んでいた。私たちも、デザートにミルフィーユを食べた。

次に向かったのは、トゥーレーヌ語学学院 (Institut de Touraine)。1912年設立のフランスの中でも最も歴史のある語学学校のひとつである。学生生活担当のエリザベスさんが、学校の紹介をしてくださった。日本人も多くこの学校に通っているらしい。ここに通う学生は、ホームステイをしている人も多いそうだ。私が、「フランス語を勉強するために、ここへ通いたい。」と伝えると、エリザベスさんはさっそく来年度の日程表をくださった。

17時前に、市議会を見学するために市役所へ戻った。朝に見たがらんとした雰囲気とは打って変わって、多くの人々が訪れていた。市議会が始まる前にババリー市長と、国際交流・文化担当のジェローム市議会議員とお会いし、握手を交わした。市議会の最初には、私たち2人を市長が紹介して下さり、たくさんの方々の注目を浴びて少し緊張した。

ガロンスが、家に帰ってきた私に気づくと、私が日本からのお土産として渡したおいりを持ってきて、一緒に食べようと言ってくれた。おいりはカラフルなかわいい色と形だったので、ホストシスター達はすごく喜んでくれていて、気に入っていたみたいだ。最初は甘くておいしいと言って食べていたが、どうしても小さくて丸い形なので、投げて口に入れて食べる遊びをし始めてしまった。私も一緒になって楽しんだが、見事一発でちゃんと口の中に入ったので、2人が必死になっておいりを口の中に入れようとしているのをカメラにおさめることに専念した。そこを通りかかったお父さんも参戦して、一発で決め、満足そうな顔で去って行ったのは見事だった。

9月13日(火)

この日はブリッタさんが家まで迎えに来てくれて、ブロワへと出発した。ロワール川沿いを車が走っていたので、嬉しげに写真を撮っていた車からおりと、ブロワ大学で英語を教えているクリスティーヌさんが迎えてくれた。私たちが訪れたブロワ大学のキャンパスは、高松高等専門学校と提携しており、法学部と工学部が入っている。まず、大学の図書館を案内してくれた。館内のデザインは非常に凝っていて、落ち着く雰囲気であった。木や煉瓦など、色々



ブロワ大学図書館にて：クリスティーヌさんと館長のアンさん

な素材を使い、オーダーメイドでこの図書館のために考えられたデザインなのだそうだ。次に教室を見てまわった。1クラスの教室の定員は最大30人で、目の行き届く範囲で授業をやっているそうだ。香川大学には100人以上入る大きい教室もあるということを知ると、すごく驚いていた。ブロワ大学の授業は積極的な参加形式をとっており、授業中でもたくさんの質問がでるそうだ。グループワークの授業以外では、講義を聴く形式が多い日本の大学とは、違いがあるなと感じた。

キャンパスの1階にある言語学習センターで、日本に興味がある学生2人と話をした。言語学習センターでは、フランス語・英語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語が学習でき、日本語はまだだが、近々



ブロワ大学の学生と交流

導入予定だと言っていた。2人の学生は、工学部のコンピュータ科学専攻の学生で、シャゴレンとエゴワンといった。私たちは、簡単な英語か簡単なフランス語で会話をし少し大変だったが、十分意思疎通を図ることができたし、もっとお互いのことを知りたい、言語を学びたいという意欲へとつながった。趣味の話などで盛り上がった後、私たちは2人の名前を漢字で考えてあげることにした。

ブロワ城はとても広く、ゴシック様式とフランポアイアン様式とルネッサンス様式とクラシック様式という時代の異なる4つの建築物で1つの中庭を囲むように構成されていた。私は建築分野について大学で学んでいるので、ちょうど前期の授業で習ったところであったフランスの建築史を目の当たりにすることができ、ずっと目をキラキラさせて回っていた。英語のガイド付きで回ったが、絵画や像、各部屋の情報量が膨大で、頭がいっぱいいっぱいになった。ブロワ城は丘の上の高いところに建てられており、展望台となっているル・フォワ塔から街を見下ろすとブロワの街が見渡せた。深呼吸すると、心が洗われるようにすっきりした。



ブロワ城のフランポアイアン様式の建物

ブロワ城をたっぷり見学した後、数学・物理学部と物質科学工学部の学生に会うために、ショコラトゥリー通りにあるブロワ大学のキャンパスへ向かった。そこでは、日本から留学してきている日本人学生1人と、日本に留学したい学生4人に会って、話をすることが出来た。ここで出会った学生は、本当に多国籍で、ブロワ大学には色々な国から学生が通っているんだなと感じさせられ、生まれた場所に関係なく、お互い切磋琢磨しながら学問を学ぶことは大切なことだなと改めて思った。

9月14日(水)

午前中はトラムに乗って、トゥールを南北に移動した。トラムの中は揺れがほとんどなく、滑るように走るの、すごく快適だった。ロワール川の北側にはマンション街があり、生活があまり裕福ではない人が市に申し込み、承認を受けると住むことが出来るそう。周りにスーパーやホールなどの施設も見られ、暮らしやすそうだった。終点近くは更地が多く見受けられた。ブリッタさんによると、数年前は先ほど見たマンション街も更地だったらしい。もう数年もたつと、残りの更地もマンション街へと変わっているのだろうか。

午後は、旧市街であるプリュムロー広場のすぐ近くにある語学学校、トゥールラングで授業を受けさせてもらった。フランスで有名なチーズについての授業に参加し、チーズの種類の多さにびっくりした。みんなで試食し、「これは大丈夫。」「おいしい。」「これはにおいの時点でだめ。」などわいわい言いながら、何から出来たチーズなのか、どれくらい発酵させているのかなどを学んだ。もちろんフランス語でだが、ヤニック先生が地図や絵をたくさん使って説明してくれたり、この語学学校に通っている日本人の人に時々訳を教えてもらったりして、理解することが出来た。



トゥールラングの教室にて

授業の後は、ヤニック先生がプリュムロー広場の歴史などについて実際に街を歩きながら教えてく

れた。トゥールラングに通っている学生とも簡単なフランス語で会話して、仲良くなれたので嬉しかった。昔から残っている家は、上部になるほど壁が手前に少し張り出しており、それは耐震などの関係であるらしい。また、フランスの建築の基準は、他の国よりも厳しく、なかなか新しい建物を建てるのが難しいそうである。そのため、古くからの伝統ある街並みがきちんと保存されているのだろう。きれいな景観を壊さないために、日本と違って電線が地上に出ていなかったり、飛び抜けて高い建物は建てなかったりと、様々な工夫が見られた。

夕食は、コジェットという瓜のような野菜の中に、肉をつめて、チーズをのせて焼いてある、器ごと食べられるグラタンのようなものだった。私はこれが好きだと伝えると、喜んでくれた。毎晩の夕食はほとんどホストファザーのジョンリックさんが作ってくれている。ジョンリックさんは料理が上手だ。



ブリュムロー広場にて

9月15日(木)

朝、マルムティエ学園へホストシスターたちと一緒に向かった。マルムティエ学園はヴーヴレイにある学校で、私のホストシスターであるシャーロットとアポリヌとガロンスの全員が通っている。マルムティエ学園に着くと、日本語のクラスを受け持っている保井先生が迎えてくれた。マルムティエ学園には1100人の生徒がいて、選択制の5年間の日本語クラスがあるそうだ。

まず、高校1年生のクラスで折り紙教室をした。うまく説明をするのは難しかったが、みんな一生懸命聞いてくれて、保井先生の助けも借りながら、箱とハートと動く鶴の3種類を完成させることが出来た。折り紙の折ったところを止めるためのシールも、模様のようにかわいく貼っている生徒がいて、同じ折り紙でも色んな工夫で個性が出ていておもしろいと気づかせてもらった。その後、保井先生に校内を案内してもらった。フランスの学校では、休み時間は外へ出なければならないようで、たくさんの生徒が広場へ出て遊んでいた。マルムティエ学園は、小中高が一緒になっているので、学園内に教会もあり、敷地がものすごく広がった。

次に、マルムティエ学園を一旦出て、近くにあるブラン・フーシーという洞窟の見学ができるワインのお店へ行った。ブラン (blanc) というのはフランス語で「白」という意味で、ここトゥールヌ地方は白のスパークリングワインが有名なので、名前はその「白」が由来となっているそうだ。店員のアリンさんが洞窟を案内してくれた。洞窟の中は凍えるくらい寒くて、最初は涼しくて快適であったが、外に出る頃には手先が冷たくなっていた。



ブラン・フーシーにてワインの試飲

後から聞くと、洞窟の中は12℃だったらしい。寒いはずである。ワインを寝かせるには、夏でも涼しいこのような環境が必要なのだそうだ。すぐ近くを流れているロワール川からとれるトゥフという柔らかい砂で洞窟を作ることが出来るので、ワインが盛んになったと言える。しかし、ワインが有名となったのは最近の20世紀頃からで、その前はマッシュルー

ムやシルク産業を同じく洞窟で行っていたそうだ。洞窟見学の後にはスパークリングワインを試飲させて頂いた。すっきりした後味で、意外と飲みやすかった。

ワインを飲んで少し良い気分になった後は、またマルムティエ学園に戻り、今度は高校3年生のクラスでお茶をした。さすが高校3年生、私たちは日本語で自己紹介をしたが、分かってくれたようだった。生徒自身でも楽しんでもらえるように、最初にお茶の点て方を教えて、実際にやってもらった。少し難しそうだったが、茶道を楽しんでもらえたと思う。

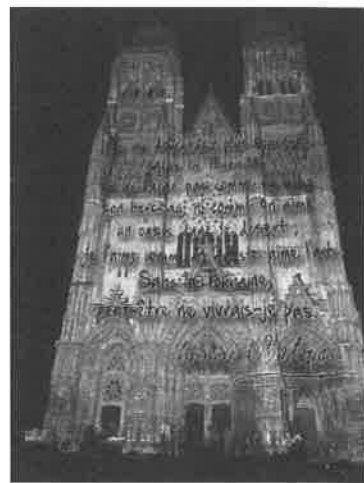
お昼からは、日の出協会の麗子さんにお会いして、トゥール市内を散策した。私はずっとちゃんと正面で見たかったトゥール駅に行きたいと提案し、見に行ったが、残念なことに時計台の部分が工事中で、本来の姿を見ることが出来なかった。トゥール駅も、私の好きなオルセー美術館を設計した建築家ヴィクトール・ラルーの設計であり、この研修が始まる前から、見るのを楽しみにしていたのである。トゥール駅を目の前にして見られないというのは、おあずけを食らった気分で納得いかなかったが、どうすることも出来ないので、「これはもう1回リベンジとして、またトゥールに帰って来い、ということだろう」とポジティブに考え、自分に言い聞かせた。

夕食の時間に、アポリヌとガロンスのフランス語発音講座が始まった。特に発音の難しい「Réfrigérateur (冷蔵庫)」の練習だ。フランス人も幼稚園の頃、みんなが通ってきた道だそうだ。単語を1音ずつに最初は分けて発音し、最後に通して発音する。アポリヌとガロンスがお手本を聞かせてくれ、その後が続く。シャーロットは、「とても近い!」と褒めてくれ、他のみんなも「上出来!」と言ってくれた。大学1年生の時の1年間、フランス語を練習した甲斐があった。フランス語はRの発音が本当に難しく、日本語では使わないような筋を使う。始めた頃はさっぱりだったのに、だんだんとRの発音に必要な“のどを鳴らす”ということが出来るようになっていた。その成果が出せて良かったと思う。

9月16日(金)

この日は1日ドメーヌ・ド・ショーモン・シュール・ロワール (Domaine de Chaumont-Sur-Loire) で開催されている庭園フェスティバルとショーモン・シュール・ロワール城を見学した。庭園フェスティバルでは、世界中の色々なところからの造園家がつくった32個の庭園が集まっていた。たくさんのアイデアと個性のつまった庭園はどれも素敵だった。私たちは1つ1つの庭園の違いを楽しみながら、たくさん写真を撮った。庭の写真だけで合計500枚は超えていたはずだ。32個の中で特に気に入った庭園は、自然と建物が共存しているものが多かった。日本の造園家がつくった庭園は最後の1つであった。いわゆる日本の鹿威しがあるような和風庭園ではなく、現代的なデザインの庭だったが、なんとなく落ち着く雰囲気のある静かな庭だった。

最後に3人で日本の庭園の前で写真を撮り、お城へと向かった。ショーモン・シュール・ロワール城は、昔お城で使われていた高級そうな家具がある居室もあったが、兵隊の鎧が無造作に置かれているような部屋や家具が壊れて散らかっている古い部屋、何も特に置かれていないがシミのついた壁のある部屋などがあり、怖かったイメージの方が強い。3人で「Très bizarre ! (とても変!）」と言いながらも、



サン・ガシアン大聖堂での
イルミネーションショー

全部回りきった。

夜にはホストファミリーが昔住んでいた家のお隣さんであるマリガエンヌさんが来て、一緒にご飯を食べた。今日のご飯はジョンリックさんの作ってくれたグラタンパイで、デザートにはフルーツがいっぱい乗っているアイスケーキを食べた。おいしい食事を楽しんだ後、一緒にサンガシアン大聖堂へイルミネーションのショーを見に行った。平日の夜であったので、人はそれほど多くなくて、ちらほらと家族連れが来ているといった様子だった。ショーはプロジェクションマッピングとなっており、サン・ガシアン大聖堂に様々な映像が映し出された。迫力満点で、約20分間の盛りだくさんの内容だった。



ホストファミリー達と

9月17日(土)

朝食の後、ホストマザーのリンダさんにスーパーに連れて行ってもらった。スーパーは大きくて、色んなお店が入っていた。スーパーの出入り口は大体大きな円形の自動回転扉になっていて、自然と順番に人が出入りできるのはいい仕組みだなと感じた。買い物後は、リンダさんが、トラムに関しての本や、模型などを見せてくれて話をしてくれた。トラムの設計に携わっていたなんて、本当に尊敬する。リンダさんは、お仕事について話をするとき、すごく楽しそう



アンボワーズ城

にしている。このお仕事が好きなんだなと思った。午後私はリンダさんにアンボワーズ城へ連れて行って貰った。小さい頃に、家族で何回も訪れたそうだ。この日も多くの家族連れが訪れており、賑やかだった。私はこの1週間で訪れたお城の中で、一番このアンボワーズ城が気に入った。ロワール川のすぐ近くに建ち、自然と伝統的な家々が立ち並ぶこの街の雰囲気も含めて、惹かれたからだ。私が写真を撮るのが好きなのを知っているリンダさんは、私と、お城や景色や兵隊の格好をした人などの写真をたくさん撮ってくれた。リンダさんの本当の娘になれたような気分だった。

お城とその庭を満喫した後は、リンダさんおすすめの「Bigot」という100年前から続いているスイーツのお店に寄った。帰りの車の中では、リンダさんが大学生の時の話をしてくれた。リンダさんは、大学生の時アイルランドに1年間留学していたそうで、ジョンリックさんはポルトガルに留学していたそうだ。「他の国に出ることは良いことよ。」リンダさんはそう言った。私もその通りだと思う。留学という形ではないが、今回の研修に参加できて、良い人たちに恵まれ、ここでしか出来ない経験が出来ている。1週間があつという間に過ぎ、トゥールで過ごせる時間がまだまだ続くような気がしていた。ここに来られたことと、ここまで来るまでに関わってくださった方々に感謝しながら、残りのトゥールで過ごせる時間も精一杯充実させようと心に決めた。

9月18日(日)

この日はヴーヴレイのフリーマーケットの日で、1年に1回この日が巡ってくるそうだ。前日の夕方にみんなで家の倉庫から出して用意した使わなくなった服やおもちゃ、ガラス製品などを朝早く自分の借りたスペースへ持って行って、1日中売るのである。

アポリーヌとガロンスはそういうのが好きなのだそうで、朝早く起きてお母さんとお父さんについていった。ゆっくりしてていいよと言ってくれていたのも、シャーロットと私はいつもより遅めの9時に起きて、歩いてフリーマーケットを見てまわった。いつも車で通っている道もすごく賑やかで、活気にあふれていた。昼食は、ピクニックのような感じで昨日ジョンリックさんが焼いていたチキンをフランスパンにはさんでサンドイッチにして食べた。こんな豪快なサンドイッチは、フランスならではの感覚を感じる。今週の水曜日にアポリーヌは日本語のテストがあると言っていたので、お昼からはアポリーヌと曜日を読み上げる練習をしながらフリーマーケットをまわった。

夕方に麗子さんがヴーヴレイに迎えに来てくれた。日の出協会の仲間を紹介してくれるということで、一緒に夕食を食べることにしていたのだ。ブロワで仲良くなったブロワ大学生のシャゴレンとエゴワンとも、私たちがフランスにいる間にまた会いたいねと言っていて連絡を取り合っていたので、一緒に会えることになった。もうお馴染みとなったプリムロー広場に集合して、合計10人もの方が集まってくださった。12人で好きな音楽の話やフランス・日本の文化の違いの話をして盛り上がった。トゥールの大学に通っている日本人の方も来てくれていて、私が言いたいことをどう言ったらいいか、「ちょこっとフランス語講座」を開いて教えてくれ、私はみんなとフランス語で会話することができた。正確に言うと、私がすごい勢いで質問しまくっていただけなのだ。

プリムロー広場で少しお茶をした後、トゥールの街を散歩して、サンガシアン大聖堂近くのガレットのお店に入った。メニューがありすぎて迷ったが、オムレツに魅力を感じすぎて、ガレットではなくオムレツを注文した。ふわふわでおいしかったので満足だった。12人で終始笑顔で、とても楽しい時間を過ごすことが出来た。友達になるのに国や言語は関係ないということを知ることが出来た。友達の言葉をしゃべること、よりお互いのことを知ることが出来る喜びを知った。今までよりももっとフランス語を学び、しゃべることの出来る言語にしたいと思った時間であった。



ロワール川のほとりにて

9月19日(月)

今日の午前中はトゥール市内で自由行動の予定だったが、麗子さんが「今年は最後のお見送りに行けないから」と言って、一緒に行動してくれることになった。麗子さんと同じくフランスに住んでいてデザインやマンガのお仕事をしている栗埜なみさんとも一緒することができた。私が、トゥール駅前にあるヴァンシー会場に行ってみたくて言っていたので、麗子さんが、



ヴァンシー会場の内観

中に入って見学できるように交渉してくれていた。ヴァンシー会場は、アーティストが来てツアーをするときや、企業の集まり、学会などにも使われる。この間、日本の文化を伝えるイベントがあったのだが、それもここで行われたらしい。ヴァンシー会場は大・中・小3つのホールを持ち、それぞれ2000人・700人・350人の収容数であるそうだ。1番大きいホールは、赤と黒を基本的な配色とし、モダンなデザインとなっていた。普段は見ることの出来ないような地下の様子や、裏方の部屋も見せてもらった。

午後はサン・シール・シュール・ロワール市役所へ向かった。市役所のフランシーヌさんと、私たちが訪れた小学校の校長かつ日仏協会のクレオラ・美紀さんが迎えてくださった。サン・シール・シュール・ロワールの小学校を訪れ、1年生のクラスで手遊び歌と竹とんぼをした。手遊び歌は「ぐー・ちょき・ぱー」をした。日本語の歌ではあるが一度お手本を見せて意味を伝えると、元気に歌いながら真似してくれた。竹とんぼは、私が事前研修で提案して、今年初めてこの事業でやることになった新しい遊びである。完成した瞬間に子どもたちが一斉に竹とんぼを飛ばし出して、正直收拾がつかなくなって少し大変だったが、それだけ大喜びしてくれたことに感動を覚えた。この時2つのクラスに行って、最初のクラスはみんなノリノリで手遊び歌をやってくれたのだが、もう1つのクラスはシャイな子が多かった。しかし竹とんぼが完成したとたん、子ども達は同じような反応を見せた。竹とんぼは偉大だと感じた瞬間だった。子ども達は最後に全員で「ありがとう、さつき。」と日本語で言ってくれた。嬉しすぎて、涙が出そうだった。



サン・シール・シュール・ロワールの小学校にて

その後サンシール日仏友好協会を訪れた。サンシール日仏友好協会は、神戸にある甲南学園を母体にし、国際化時代の人材育成を目的として開校された「フランス甲南学園トゥレーヌ中等部・高等部（リセ 甲南）」の跡地で、リセ甲南の閉校を残念に思っていた市民や元職員たちが中心となって、100名近くのメンバーが集まり、活動が始まったそうだ。メンバーであるジョゼットさんが迎えてくださった。今は、生け花教室、日本料理教室、日本文化講座、和太鼓教室、切り絵教室などの活動があるそうだ。

家へ帰るとアポリーヌが日本語の勉強をしていた。一緒に発音して練習したり、「お正月」の歌を二人で歌ったりした。アポリーヌはいつも笑顔で元気に話しかけてくれて、一緒にふざけたり、おもしろい動画を撮ったり、アポリーヌの笑顔には何度も助けられた。部屋で少し休んでいるとガロンスが来て、本を見せてくれた。フランス語で書かれた4コママンガが1ページずつあって、フランスと日本の違いについておもしろく書かれてあるものだった。よく見ると昨日お会いした栗埜なみさんが書いたもので、日の出協会に行って買ったそうである。

家族みんなで食べる夕食。ホストファザーのジョンリックさんが明日から出張でドイツへ行くため、私の滞在中で、家族全員がそろうのは最後だった。ジョンリックさんはいつも私に英語で話しかけてくれるが、今日たまたま家族と話している流れで私にそのままフランス語で質問がとんできた。ジョンリックさんは間違えた、という風なそぶりを見せ、英語で言い直そうとした。しかし、私はジョンリックさんのフランス語の質問が理解出来ていたので私は分かったよと伝え、フランス語で質問に返すことが出来た。ただフランス語が理解出来たと言うだけではなく、お父さんの自然なフランス語が分かっ

たということが、些細なことかもしれないが、ものすごく嬉しかった。

9月20日(火)

午前中はディドロ小学校を訪問した。今回の事業で訪れる学校の中で、唯一日本人の方の先生がいなかったため、子ども達にうまく教えられるか不安だったが、これまで訪れた2校の経験を活かして頑張ろうと思った。小学5年生のクラスへ行ったが、子ども達は元気と好奇心一杯で、私たちがフランス語で自己紹介した後、たくさんの質問をしてくれた。私達に興味を持ってくれていることがすごく嬉しかったし、何回も名前を呼んでくれて、小さなかわいい妹・弟がたくさんできた気分だった。折り紙も竹とんぼも成功し、子ども達は大喜びしてくれたので、日本の遊びを教えることができ良かったと思った。今日のことを少しでも覚えていて、将来日本にもっと興味を持ってもらえたらいいなと感じる。竹とんぼの羽に日本語で子ども達の名前を書いてあげて、お別れした。



ディドロ小学校の子ども達と

午後は、オペラの劇場を見せてもらった。係員のジュスティーンさんが案内してくださり、建物の歴史やオペラの説明をしてくださった。このオペラの劇場は1889年のエッフェルタワーの完成と同じ年の開館で、それより前は修道院として存在していたそうだ。劇場はイタリアン様式で、きれいに見えるように円を描く形となっている。館内には、色々なところでトゥール市のエンブレムを見つかることができた。劇場内のシャンデリアは豪華で、206本のランプがついていて750kgの重さがあると教えてくれた。

照明が切れたときの交換は、シャンデリアごと上にあげて行うそうだ。1番上の席は9mもあるところなのに、それよりも高いところに空間があるなんてびっくりした。また、普段は入れない衣装部屋を案内してくれた。オペラに出演する人は、全員この衣装部屋から服を借りて舞台に出るそうで、自分の持っている衣装を持ち込むことはできないらしい。たくさんの種類と量の衣装が並んでいた。衣装には30年の歴史があり、ジュスティーンさんは、「衣装は私たちの宝物です。」と言っていた。誇りを持ってここで働いていることをひしひしと感じた。

オペラの劇場見学の後、市役所に戻って、セレモニーまでの時間、クレアさんが、私たちがセレモニーで発表するプレゼンの音読練習につきあってくださって、発音やアクセントなどを直してくれた。このプレゼンは、私たちがフランスに来る前に考えたものであったため、2週間をトゥールで実際に過ごして、言いたいことが変わったり足して言いたいことができたりした。そのため、私はブリッタさんやクレアさんに尋ねながら、納得のいくプレゼンをつくることができた。



トゥール市庁舎にて研修終了セレモニー

17時半から、滞在終了のセレモニーが始まった。今回の研修で私たちに関わってくださった方々が集まってくださった。最初にブリッタさんが10日間の活動のプレゼンをした。それを聞いて、本当にあつという間だったと感じた。こんなにも早く最後の日がやってこようとしているなんて信じられない。それくらいこのトゥールでの日々が充実していたということだろう。次は私たちが自分たち

の用意してきたプレゼンをし、私は高松市の高松駅前にあるオリーブタワーのことを伝えると共に、トゥールで学んだ建築のことについて話し、感謝の気持ちといつか必ず戻ってきたいという意思を伝えた。拙いフランス語であったが、みなさん最後まで聞いてくださって、いつでもまた戻って来てねと歓迎してくださった。発音も良かったよとたくさんの方が言うてくださった。集まってくださったみなさんと存分に話ができ、明日の朝にはトゥールともみなさんともお別れしなければならないと思うと涙がでそうだったが、また会えることを信じて、トゥール市庁舎を後にした。

夕食のとき、ホストファミリーから私へのプレゼントがあった。ヴーヴレイのスパークリングワインと私の大好きだった手作りジャム、ガロンスが昨日見せてくれたフランス語で書かれた本だった。ホストファミリーには本当にお世話になった。この家で過ごすことができ、幸せだった。

ホストシスターの次女アポリヌと三女のガロンスはフランス語しかしゃべれないので、私がフランス語を理解できなくて、何か伝えてくれようとしているのに分かってあげられないということが最初はよくあった。しかし、次第に、私が慣れてきたのと2人が私の理解が追いつかないときは伝え方を変えてくれたので、お互いにコミュニケーションをとることができていた。長女のシャーロットは簡単な英語ができ、歳も1番近いので、よく話しかけてくれて、自分たちの趣味の話などをして盛り上がった。家に帰ると「さつき～」と迎えてくれる私のホストシスターたちが大好きだ。いつも私を気にかけてくれるホストファザーのジョンリックさんとホストマザーのリンダさんには感謝である。ここでこのファミリーと10日間を過ごせたからこそ、今回の研修も良い経験となったのだと感じる。夕食の最後には、アポリヌがずっと私と一緒に練習していた1週間の曜日の暗唱を披露してくれた。一発で決めてくれて、私にとっては十分なプレゼントとなった。

私がホストファミリーへの手紙を書いていると、飼い猫のテテが私の部屋へやって来て、私の膝の上に突然飛び乗ってきたので驚いた。今までそんなことは一度もなかった。テテも私がもうすぐ日本へ帰ってしまうことを感じ取って、寂しがってくれているのかなと思うと、ここで過ごした日々を思い出して泣きそうになったが必死にこらえて手紙を仕上げた。長いようで、本当に短い充実したホームステイであった。

9月21日(水)

朝はいつも通り一緒にご飯を食べ、ホストファミリーそれぞれのイメージカラーで作った24面体の折り紙の箱をプレゼントした。ホストシスター達はきれいと言って特に喜んでくれて、家の日本の折り紙コーナーに飾ってくれた。頬と頬をあてて挨拶するビズをして、家族とお別れした。泣きはしなかったが、もう目のすぐ後ろまで涙がスタンバイしている状態だった。

ブリッタさんがお迎えに来るまでの間、一緒に過ごしたホストファミリーの一員である庭の動物たちともお別れをし、ホストシスター達のそれぞれの勉強机に手紙を置いて、10日間過ごした家を最後に一周して記憶にとどめた。

サン・ピエール・デ・コール駅にブリッタさんと向かうと、片山君のホストマザーのクリスティーナさんと片山君が待っていた。



ブリッタさんとお別れ

クリスティーナさんにもお礼とお別れの挨拶をし、駅のホームへ向かった。ブリッタさんはホームのTGVの乗り口までついてきてくれて、一緒にTGVを待った。ブリッタさんと私たちも、出会った最初はぎこちない感じであったが、いつも優しい笑顔と眼差しで私たちを見守ってくれ、一緒に行動してくれ、いつの間にかトゥールの生活でなくてはならない存在になっていた。車の中でもよくフランス語を教えてくれて、最近では、ブリッタさんは私たちを「mes enfants(私の子ども達)」と言い、私たちはブリッタさんを「ma mère(私のお母さん)」と呼び合っていたほどだ。TGVが出発して、ブリッタさんが見えなくなるまで、私たちはずっと手を振っていた。

パリに着いたら、せっかくのパリを楽しもうということで、有名どころを回った。私は1回パリに来たことがあったので、その経験を活かしてメトロなどをうまく活用出来たと思う。ルーヴル美術館と凱旋門、エッフェル塔を見に行き、中には入っていないが、パリの大御所を堪能したという感じだ。スリなどにとても警戒していたが、何も問題なく回ることができて、安心した。前には乗れなかったセーヌ川のクルーズに乗り、パリの夕焼けと夜景の両方を楽しめ、満足だった。最後にホテル近くのモンパルナスタワーに上り、展望台から360°パリの夜景を見渡し、フランスの街にお別れをした。



セーヌ川のクルーズ船からみた橋

9月22日(木)

ホテルで朝食とり、メトロで空港へと向かった。重い荷物が2つもあり、移動はとても大変だったが、何度か通りかかった人が助けてくれて、なんとか空港に到着した。ところが、最後の最後で問題が発生してしまった。私たちの飛行機の席がオーバーブッキングで、乗れないかもしれないというのだ。とりあえず乗り口まで向かったが、結局空気が1つしか出ず、私だけが先に帰ることとなった。片山君が無事に帰れることを祈り、飛行機に乗り込んだ。

9月23日(金)

朝、無事日本へ帰ってきた。フランスで過ごした日々がだいぶ前であったような気がし、少し寂しかったが、日本語が目に入ると、帰ってきたんだなと安心感を得た。

感想文



香川大学工学部
安全システム建設工学科 2年
村井 颯希

Je suis très contente.

「Je suis très contente.」(私はとても幸せだ)このプログラムに参加して、私の思いはこれに尽きます。トゥールで過ごした2週間は私にとって特別で、忘れられないものになりました。今でも、朝起きると、私はホームステイさせてもらった自分の部屋にいて、ホストシスターのシャロットやアポリーヌ、ガロンスが部屋のドアをこんこんとたたいて「さつき」と呼びに来てくれるんじゃないかと想像してしまいます。

本当の国際交流は、現地へ行き人々と交流しなければできないという思いから、全ては始まりました。私は大学1年生の間フランス語を履修しており、以前パリへ行ったときに、現地の人と十分にコミュニケーションを取りきれなかった悔しさから、もう1度フランスへ行き、フランス語で現地の人とコミュニケーションをとりたいと、より強く思うようになっていました。

トゥールでは、たくさんの人と関わる中で、日本のことを知ってくれる喜びを知りました。私は今まで、日本に来ていて日本に興味のある外国人とは交流をしていました。特にそういう訳ではない人達とも今回関わり、海外にむけて、もっと自ら発信していくことが大切だと感じました。私たちのした活動によって、少しでも日本に興味を持って、将来日本や高松を訪れてくれることを願います。

また、伝統的な建物が残っているフランス、トゥールでは、建築関係について学んでいる学生としても、大きな収穫がありました。目に入る景色全てが美しく、自然を大切にしているのが見て感じられました。景観を壊さないためにも電線や新しい建物、高層ビルなどは建てないという工夫がなされています。トゥール市のそばにはロワール川が流れており、そこからとれるトゥフという黄色い柔らかい砂で、多くの建物が建てられていることを知りました。私たちが訪れたお城はもちろん、ワインを寝かすための洞窟もトゥフでつくられていました。トゥグルディという伝統的な洞窟住宅も、トゥール市にはたくさん残っており、今でも人々が暮らしています。古くからの伝統を守り、きれいな景観と自然を保って、その土地でとれる資源を使っていることに感銘を受けました。

そして、やはり今回のこのプログラムに参加し、本当に良かったと心から思えるのは、トゥールでたくさんのかげがえのない出会いがあったからです。ホームステイさせてもらったスネ家のみなさん、いつも側にいてくれたブリッタさんをはじめ、トゥール市役所・ブリア大学・語学学校で一緒に時を過ごしたみなさん、日の出協会、日仏協会のみなさん、訪れた小中高の生徒達。トゥールで出会った人々のおかげで、私の未来は変わったと言っても過言ではありません。良い経験は自分を変える手助けをしてくれます。フランス語に囲まれ、フランス語を使おうと意識した毎日は少なからず私の力に変わりました。トゥールでの生活は、ただの海外旅行では経験出来ないことばかりで、日々新しいことを知り、新しい人と出会い、2週間があっという間に過ぎました。

これらの経験はこれからの私の人生においてかけがえのないものとなるはずですが、帰ってきてからも、しばらくは英語を話すときにフランス語が自然によく出てしまっていました。それほど、今回の経験は私の中で大きなものだったということを実感しています。それと同時に、語学力は、使えばその分上達し使わなければすぐに失われてしまうということも身にしみて感じました。この経験を意味のあるものにし続けるためにも、フランス語を学び続けたいと思います。

私は今回持つことのできた縁を大事にし、出会った人々とこれからも繋がっていきたいと思っています。そして、いつかトゥールをもう一度訪れまた会える日を楽しみにして、勉強を重ね、お世話になった方々に、フランス語を使い自分の言葉で思いを伝えたいと思います。

